

九

州

ネ

ツ

ト

5月28日

九州体育・保健体育ネットワーク研究会



佐賀県開催【むつごろうラウンド】

H28. 5. 28(土)

佐賀大学教育学部附属小学校

この度の熊本地震におきましては、被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様の1日も早い復興をお祈りいたします。今回は、開会の前に桐蔭横浜大学の佐藤豊先生の呼びかけで、熊本地震で亡くなられた方へ全員で黙祷を捧げ、哀悼の意を表しました。

さて、今回の佐賀「むつごろうラウンド」では、地震により熊本県での開催が見送られた「西部地区体力向上指導者養成研修」の内容の一部を、5名の先生方から情報提供をしていただきました。実技を交えながら貴重な情報を得られるということで、県外から27名、県内から40名の合計**67名**という、たくさんの方が参加され、会場は熱気に包まれ、学ぶことの多い大変充実したラウンドとなりました。

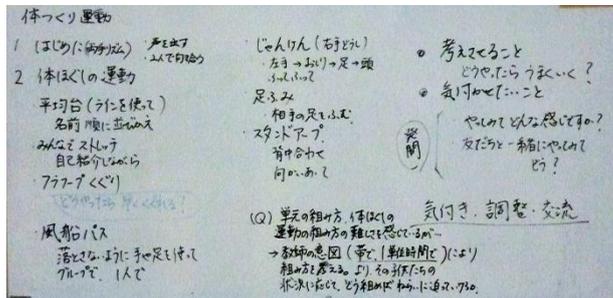
1 保健と体育から子供の健康増進・体力の向上を考察する 講義・演習

長崎県教育委員会指導主事の佐伯直也先生に、東部地区での「保健」についての研修内容を紹介していただきました。小・中・高の学習指導要領の目標の言葉の中で、「体力の向上」という言葉だけが共通しており、保健から「体力の向上」に、どうアプローチしていけるのかという視点でお話をさせていただきました。佐伯先生が言われた「子供は健康に効果のあることを日常的に行っている。それを将来的にも続けていけるようにすることが大事」という言葉が印象に残りました。子供が正しい意思決定をできるように、保健を通して正しい知識や判断力を身につけさせていきたいものだと実感しました。



2 児童生徒の動きづくりを通して体力の向上を図る(体づくり運動) 実技等

東広島市教育委員会指導主事の清田美紀先生と宮崎県教育庁スポーツ指導センター指導主事の西田浩司先生から「体づくり運動」について情報提供をしていただきました。西田先生からは、いろいろな活動を紹介していただき、みんなで一緒に楽しく汗を流しながら、体験を通して学ぶことができました。清田先生の「頭と心と体を一体に使って活動してほしい。頭で考えたことを実際にやってみて、できたときの喜びは楽しさや主体的な学びにつながる。」という言葉を受けて、実技の合間にも、「どうすればうまくいくか」をみんなで考え、意見を出し合う時間も設けられました。佐藤先生からは、活動を仕組む際には、それぞれの活動をどう意味づけるのかを考えていくことや、なるべくエラーをさせて待ち、子供から引き出していくことが大切であることも伝えていただきました。



3 運動嫌いの子供に対する運動習慣の形成を図る(ゲーム・ボール運動) 実技等

福岡県教育委員会総括指導主事の中野一成先生に、「ゲーム・ボール運動」について、運動に対して苦手意識を持つ、前向きではない子供への指導に焦点を当てて情報提供をしていただきました。ネット型の種目において、ボールの方向に体を向ける動きや、「ドンマイ」「イエーイ」というチームワークの向上につながる態度を、楽しく活動する中で自然に学んでいける方法も紹介していただき、目から鱗でした。実技を通して、「(苦手な子供も)楽しむためのルール」、「勝つためのルール」など、目的に応じてルールを考えていく活動を体験できたことも、よい勉強になりました。ただ、「ルールの簡易化」が、即苦手な子供への特効薬となるわけではではないので、実態に即した発問などを意図的に仕組んで学習課題に向き合わせしていくことが必要であるということも学びました。



(報告：神崎市立神崎小学校 高柳 元)